

まちの元気で日本を幸せにする！

～地域の元気創造プラン～



平成25年4月17日
総務大臣 新藤義孝

地域経済イノベーションサイクルの全国展開

プロジェクト 1 PROJECT 1

地域の資源と資金を結合させ、地域の元気事業を立ち上げる
全国の自治体を支援

○ 地域経済イノベーションサイクルの全国展開 ⇒ 「業を起こす・雇用を創る」

産・学・金・官ラウンドテーブル

地方自治体(都道府県、市町村)と地域金融機関(地銀、信金etc)等との連携・協力関係を確立

先行モデル

地域経済循環創造事業交付金
(平成24年度補正予算 21.9億円)

- 流出する資金を域内に還元
例) 重油コストを木質チップに振り替え、雇用確保と山林保全を図る
- リサイクル資源の高付加価値化
例) 特産養鶏の鶏ふんを高品質なブランド有機肥料とすることで商品化を図る
- 面的再生を伴う事業化
例) 震災被害で廃業した老舗旅館の再興を核とした中心市街地再生事業

○ 事業化プロセスに応じた支援策を構築

構想段階

- ・ 地域資源の再発見(リサーチ)
- ・ ビジネスモデルの構築(ストーリー)



- ・ 先行モデル等のノウハウの提供
- ・ 地域資源事業化支援アドバイザー
- ・ 起業家誘致・人材サイクル事業

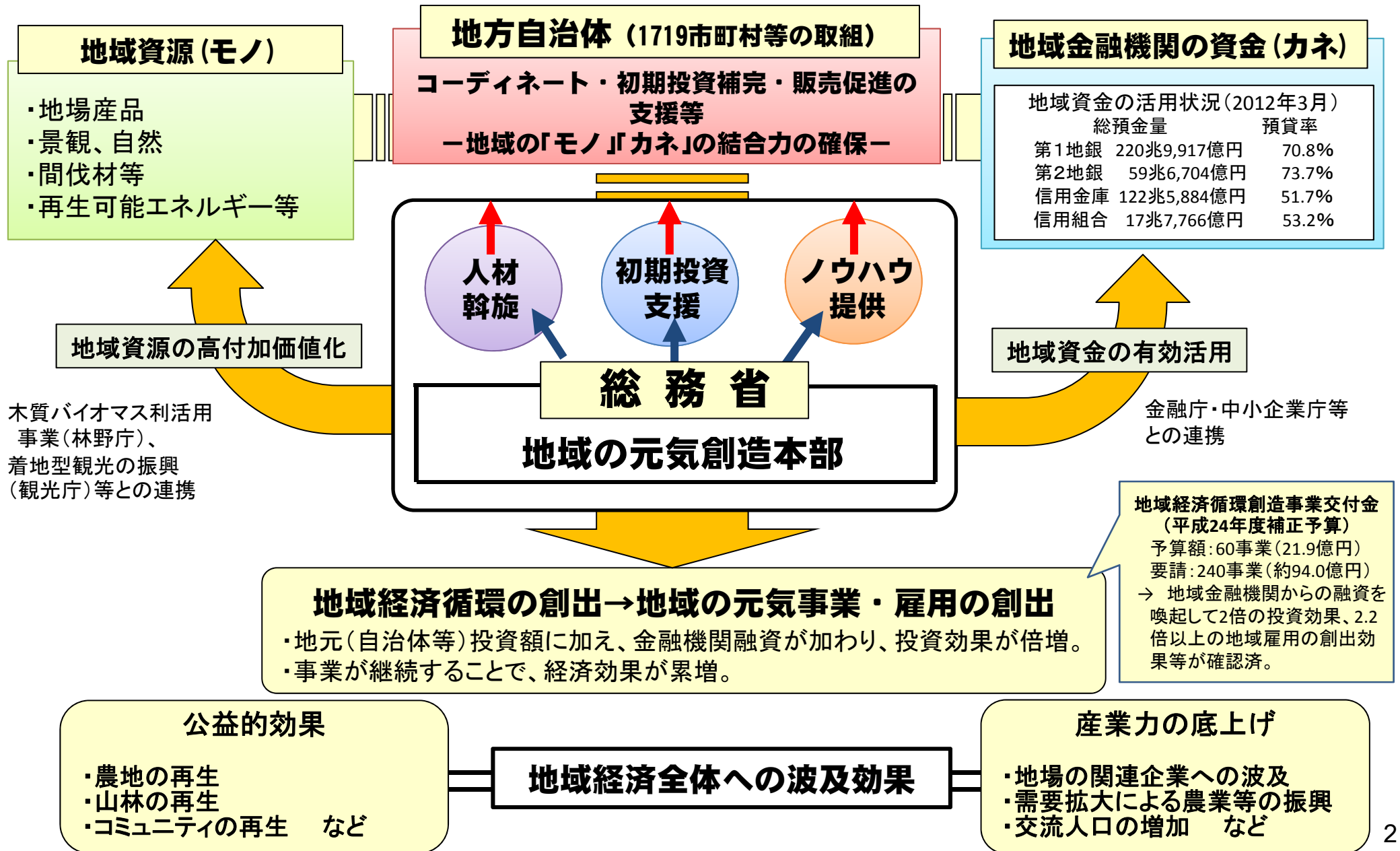
スタートアップ段階

- ・ 事業プラン・資金調達計画等の作成
- ・ 初期投資財源の調達
- ・ 運転資金等円滑な金融の確保



- ・ 地域金融機関との協働(金融庁と連携)
- ・ 中小企業新事業支援施策の活用(中小企業庁と連携)
- ・ スタートアップ資金の支援
- ・ 地域活性化ファンドの活用(地域経済活性化支援機構等との連携)

地域経済イノベーションサイクルのフレーム



新しい地域活性化のための公共事業パッケージ

プロジェクト 2 PROJECT 2

ソフト・ハードを併せ、ICTを活用して、活力ある地域をつくる地域経営により持続的な成長に取り組む自治体を支援

○ 新しい地域活性化のための公共事業パッケージ ⇒ 「新しいインフラで地域活性化を創る」

(例)

エネルギー等地域経営型

成長のエンジンとなるエネルギーや地域資源を広域エリアで循環・活用するためのマネジメントインフラ

既存のメガインフラだけに頼らず、自立した地域エネルギーインフラ

- 地産地消の深耕
- 高い利用効率
- リスクに強い土台

公共クラウドベース

効率的な地域経営や災害にも強い街づくりをICTを活用して支援する共同利用型インフラや高度ネットワーク

・共有化できる場所は基盤化して効率化
・利用頻度の低い必須機能は共同で運用

- 低コストで柔軟に
- より便利にする
- 進化するサービス

機能連携広域経営型

生活や物流等の住民の活動に基づく圏域全体で、民間投資を促進しながら生活の質を高める、自治体の範囲を超えた社会的ネットワークを支えるインフラ

集約とネットワークにより圏域全体の生活支援機能等を確保

- 多様なサービス主体の連携
- 共発的地域づくり
- 生活の質(QOL)の向上

○ 自治体の提案を踏まえ、地域の実情に応じた新しい地域活性化インフラを順次導入